



中国日本商会

今どきコラムー117

中国雑談

ランクインした 143 社の中国企業

8月2日、米国の『フォーチュン』誌が最新の世界上位500社ランキングを発表した。ウォルマートが8年連続で世界最大の企業（同時に世界最大の雇用主：職員数230万人）となった。中国企業の国家电网は2位に躍進し、アマゾンが初めてベストスリーに入った。アップルは6位に順位を上げた。

今年、ランクインした中国大陸（香港を含む）の企業数は2年連続でトップに輝いて、135社に到達し、昨年よりも11社増加した。台湾の企業を加えると、中国のランクインした企業数は計143社に上る。一方で米国はランクインした企業が122社で、昨年よりも1社増えた。

同ランキングの主な選考基準は企業の売上収入であり、売上収益率及び純資産収益率も重要な指標となる。

新型コロナウイルス流行の影響で、今年のランクインした全ての企業の売上収入は31兆7000億ドルで、前年比5%減だった。ランクインの条件（最低売上収入）は254億ドルから240億ドルに引き下げられた。同時に、企業の利益も大幅に下がっている。今年のランクインした全ての企業の純利益の総額は1兆6000億ドルで、前年同期比20%減と2009年以来の大幅な減少となった。世界のサプライチェーンが中断され、西欧、北米、東アジアの地域での経済活動の発展が停滞する中で、企業の経営は縮小し、収益が減少している。

詳細を見ると、アップルは収益面でトップになり、574億ドルだった。アップルの後に続いたのはサウジアラムコで、493億ドルで2位に入った。ソフトバンクグループは470億ド



ルで3位だった。工商銀行、建設銀行、農業銀行の中国三大銀行が前年に続いて上位10位以内にランクインした。この他にマイクロソフトやグーグルの親会社である Alphabet、ソーシャルメディア最大手の Facebook が収益面のランキングでそれぞれ5位、7位、10位に入った。

ランクインした中国大陸（香港を含む）の企業135社の平均収益は約35億4000万ドルで、500社の企業の平均収益（33億ドル）を上回っている。これに対して、米国企業の平均収益は51億ドルまで下落している。

収益率のランキングで、上位に入ったのは日本、中国、米国の企業だった。トップは収益率83.7%のソフトバンクグループで、TSMCが2位につけ、グーグルの親会社である Alphabet が3位に入った。収益率33%以上のテンセント（騰訊）は4位だった。

ランキングにおける26の業界のうち、21の業界では総収益が前年同期比で減少しているが、エネルギー業界の収益の下げ幅が最も大きく、97%だった。

【フォーチュン】上位500社にランクインした企業の2020年度の総売上収入は約31兆7000億ドルで、その年の世界のGDPの約三分の一に相当する。上位50社の総売上収入と総収益はそれぞれ、ランクインした全ての企業の総売上収入と総収益の30%及び35%を占めている。

日本企業（中国）研究院 執行院長

chenyan5931@163.com